

第5回日本薬学教育学会大会 ワークショップ開催趣旨書

タイトル	患者との対等な対話を通して臨床スキル向上を図る ～実践的取り組みの体験を通して～
オーガナイザー	1. 帝京大学薬学部 特任助教／虎薬局 新井田 純坪
概要	<p>臨床で活躍する薬剤師にとって、患者の健康な生活を捉える能力を向上させることは必須である。現状、患者による講演会や講義などにより、患者の生活観を学ぶ機会は増えているが、一方的な聴講スタイルでは、十分に生活を捉えられているとはいえない。そこで、医療者と患者の壁をなくし、参加者全員が対等な対話ができる場を提供している実践事例を紹介する。この活動では、互いの職種や背景にはとらわれずに、一つのテーマに関して参加者全員の知識や経験を共有する手法を取り入れており、テーマを変えることで薬剤師や薬学生が患者の生活観を知る場となることが期待される。また、薬局や大学内など、小さなスペースで取り組むことが可能であり、薬剤師や薬学生が患者を学ぶ機会を気軽に創出できる。</p> <p>今回は、本活動を実践しているペイシェントサロン協会の協力を得て、ファシリテーターとして複数名の患者が参加するワークショップを開催することとなった。遠隔地でも対話のできるオンラインシステムのZOOMを用いることで、参加者全員と楽しく取り組み、対等な対話の場を体感して頂くことで、ご自身の環境での応用的実践の場作りの契機となれば幸いである。</p>